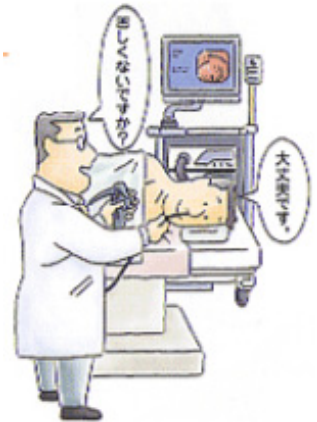


鼻から胃カメラ(胃内視鏡検査、上部消化管内視鏡検査) ができるって本当？

今回のテーマは極細径内視鏡です。

食道、胃、十二指腸などの上部消化管に対しては従来、胃カメラ(上部消化管内視鏡検査)やバリウム検査(胃透視検査)が行われています。



胃カメラ検査では10mm前後の太さの内視鏡を口から挿入する際に、舌や喉(のど)を刺激し、多くの方は咽頭反射を起こします。このため、検査の前処置として十分な咽頭麻酔を行い、反射を抑制したり、検査の不安を取り除くために鎮静剤の投与を行っています。それでも、内視鏡検査は“つらい”、“苦しい”と感じている人が多いのも事実です。検査時の苦痛を軽減させることを目的に、経鼻的に挿入できるように内視鏡を細くする試みが行われてきました。

経鼻的に挿入すれば、咽頭反射はほとんど起こりません。2001年から極細径内視鏡が製品化されました。現在、オリンパス社およびフジノン社製の経鼻内視鏡は操作性、画質などが改善され、スクリーニングとしてかなり有用な検査法として注目されています。

練馬総合病院の新病院内視鏡センターでは、先端の太さが5.9mm(フジノン東芝社)と5mm(オリンパス社)の両方の経鼻内視鏡を導入しました。

経鼻内視鏡の検査中には会話をすることが可能なので、患者さんはリラックスできるし、検査に対する不安は低いようです。鼻腔が狭い人もいるし、アレルギー疾患によって鼻粘膜の浮腫性変化が認められる人もいるので、全例に経鼻内視鏡検査ができるわけではありません。しかし、この極細径内視鏡検査を用いればたとえ経口的に挿入しても従来と比較すると嘔吐反射も少ないので、楽に検査を受けることができます。

従来の経口内視鏡検査と比較すると経鼻内視鏡検査の画質は同等ではありませんが、改良されました。しかし、スクリーニング、あるいは、苦し検査であるので、胃の検査を避けている人にとっては画期的な検査と言えるでしょう。

筆者自身も自分に挿入してみましたが、楽にできました。

経鼻内視鏡検査に関心がある方、経鼻内視鏡なら検査を受けてみたい、経口内視鏡検査で辛い経験がある方など、ぜひ当院内視鏡センターにお問い合わせください。

TEL 03-5988-2297(直通)

TEL 03-5988-2200(代表) 内線 1600

